

## 強化プラスチック誌 投稿規定

2019. 9. 30 改正

- 1. 目的** 強化プラスチック誌への投稿について規定する。
- 2. 投稿資格** 原則として、(一社)強化プラスチック協会会員、もしくは公的機関とする。
- 3. 著作権** 強化プラスチック誌に掲載された記事の著作権は、(一社)強化プラスチック協会に属する。著者が自ら使用する場合はこの限りではない。
- 4. 審査** 論文については、査読審査を行う。審査については、本協会の定める審査規定に従う。
- 5. 原稿の種別** 執筆要項に定める。
- 6. 原稿の掲載** 掲載の可否については、情報・編集委員会が責任を持つ。
- 7. 原稿の返却** 原稿は原則として返却しない。
- 8. 掲載料** 無料とする。ただし、カラー原稿掲載の場合は有料。
- 9. 原稿送付先**  
〒105-0004 東京都港区西新橋1-18-17  
明産西新橋ビル6F  
ニッセイエプロ株式会社  
『強化プラスチック』誌事務局代行担当  
TEL : 03 (5157) 1274, FAX : 03 (5157) 1275  
E-mail : frp\_daikou@eblo.co.jp

## 強化プラスチック誌 執筆要項

2019. 9. 30 改正

### 1. 原稿の 카테고리

以下のいずれかとする

#### (1) 主に投稿に依存しているもの

**論文** 学術・技術・開発関係の原著論文で、他の学会誌・学術誌に原著論文として掲載されたことのないもの。理論、実験等に明確な誤りがなく、工学または工業上の貢献性があり、かつ独創的で価値ある結論あるいは事実、知見を含むもの。刷り上がり4~6頁程度。

**技術資料** 技術的に有用なデータなど。既発表のもののみまとめも可能。刷り上がり4~6頁程度。

**報告** 新しい技術や動向、知り得た新しい情報などを報告したもの。刷り上がり2~3頁程度。

**調査** 海外調査、あるいはテーマを絞った調査など。刷り上がり3~6頁程度。

**研究紹介** 公的機関もしくは企業の研究開発などを紹

介するもの。刷り上がり4~6頁程度。

**製品紹介** 企業の新製品などを紹介するもの。刷り上がり2~3頁程度。

**企業拝見** 主に成形加工メーカーの紹介。刷り上がり1頁。

**ホームページ紹介** FRPに関するホームページの紹介。刷り上がり1頁。

**ISO9000/14000シリーズ取得企業紹介**  
取得された企業の取得情報の紹介。刷り上がり1頁。

#### (2) 企画・執筆依頼のもの、および事務局作成分

この場合、上記(1)のカテゴリに加え、連載講座、解説(4~6頁程度)、特集(4~6頁程度)、寄稿、FRPネットニュース、会員・読者の欄、まちかどF+R+P、会議より、委員会レポート、部会だより、セミナー・研究会だより、JRPSニュース、JRPSカレンダー、協会行事、など。



い。また、式番号を文中で使用するときは、式

(1) , 式 (2) などとする。

5. 10 脚注は\*<sup>1</sup>, \*<sup>2</sup>等の記号を用い、ワープロでは各節の末に、手書きの場合は原稿用紙ごとに整理し、その用紙の最下段に本文との間に線を入れて記載する。最後にまとめたり、欄外に書いたりしない。

5. 11 文献の記載方法については、引用箇所の上に<sup>1)</sup>,<sup>3)</sup>,<sup>5) ~8)</sup>などを付け、文献を本文末にまとめて書く。著者名は連名者全員を書き、「他3名」などと略さない。

雑誌の場合の引用方法：文献番号) 著者名, 雑誌名, 巻一号, 開始ページ (西暦発行年)。ただし、通年ページ数の入っている雑誌の号数は記入不要。

1) 強化太郎, 強化プラスチック, 43-4, 200 (1997)

2) A. J. Kinloch, Y. Wang and J. G. Williams, Compos. Sci. Technol., 47, 225 (1993)

単行本の場合の引用方法：文献番号) 著者名, “書名”, ページまたは章 (西暦発行年) 発行所

1) 島村昭治, “複合材料のはなし”, p. 200

(1982) 産業図書

## 6. 図および表の体裁

6. 1 図・表中の文字は和文を原則とする。
6. 2 図および表には必ず説明文 (キャプション) をつける。なお、1つの図・表の中に (a) , (b) のように複数の図表がある場合は全体の説明文をつける。説明文は和文を原則とする。
6. 3 図および表の番号は図1, 表1のように表す。いずれの場合もそれぞれ通し番号とする。なお、写真は図として取り扱い、写真1などは用いない。
6. 4 図, 写真, 表は鮮明でなければならない。不鮮明な場合には再提出を求められることがある。本誌は原則モノクロ印刷のため、元図がカラーで作成されている場合には十分考慮すること。ただし、執筆者が特別料金負担によるカラー原稿の掲載を希望する場合には、対応が可能。料金については別途相談による。

## 7. 他の著作物からの引用

他の著作物から引用する場合、必要な場合は著者の責任において原著者または発行者の許可を取得する。